

【SKI DIVISION CATEGORY GP1】

- 01) 高度な改造を加えた水上バイク競技への関心を促進することを目的としています。
- 02) 使用する水上バイクは、JCIの検査が必要。
- 03) 日本限定ルールとして、JPBAの承認品、もしくは純正相当品のウォーターボックスを取り付けなければならない。騒音レベルは15mで86dB以下。
- 04) 燃料は、基準に準拠している事。(有鉛は不可)
- 05) 重量制限を満たすために、競技の前にウエイトを追加することができます
※重量は、燃料タンクが空で、他のすべての液体がレースレベルで行われることによって測定される。
- 06) ターボハウジングとエキゾーストマニホールドは、冷却水が完全循環水タイプであること。
- 07) 機種特例 KawasakiSX-R1500 (SLTD) を認める。※船体全長が97インチを超える為。
船体については、トップデッキもハルも完全純正状態でないといけない。

MAIN CRITERIA

このカテゴリーで競合するアクアバイクは、以下の基準に適合している必要があります

- 01) 最大エンジン立方容量：
 - a) 自然吸気2ストローク 1300 cc未満
 - b) 自然吸気4ストローク 1500 cc未満※
 - c) ターボ4ストローク 1100 cc未満
(900cc以下の過給機4stエンジンは8psiまでのブースト圧)
(900cc以上1100cc未満の過給機4stエンジンは6psiまでのブースト圧)
- 02) 乾燥重量は 135kg以上
※kawasaki SX-R1500は、フードを外した状態で 210Kg以上 ガソリンに関しては残量に応じて減算いたします (1L=1Kg)
- 03) 船体の長さは 246cm未満※
- 04) 船体幅は 76.2cm未満※
※船体の長さ幅は、バンパー、ライドプレートを外した寸法とする。
- 05) 船体の高さは、船体の最低点からハンドルポールまでの長さで86cm未満
- 06) ハンドルポールは75度以上の可動域があり、エンジンコンパートメントの前に取り付けなければならない。

HULL

- 01) 柔軟な牽引ロープが必要です。牽引ロープは柔軟なものでなければなりません危険を引き起こさないように材料(ナイロンストラップ、ロープなど)

★2022年より以下の内容に変更する。(2020年以降ワールド世界統一基準)

- ① 最大2セットのスポンソンを装備できます。
※スポンソンのベース本体にフィンがついているものは、スポンソンのカウントとする。
- ② スポンソンの本体の厚さは6mm以上、すべての全縁は、危険を引き起こさないように丸みを帯びている必要があります。
- ③ ボンドフランジより、外側にスポンソンを取り付けることはできません。

- ④ フィン、ラダー、ウィングなど危険を引き起こす可能性のある付属物は不可。
- ⑤ フィン本体には、金属の使用は可。ただし危険が及ぼさないような形状であること。
- ⑥ 各スポンソンの全長は、910mm を超えてはならない。
- ⑦ スポンソンは、船体の側面から横方向に 100mm を超えて突出してはならない。
- ⑧ スポンソン（フィンの部分）は、ベースより、下側に 63mm を超えてはならない。
- ⑨ スポンソンは、船体の側面が底部と交差する点より下に伸びてはならない。
- ⑩ スポンソンはボンドフランジの内側に取り付けることができますが、スポンソンのどの部分もボンドフランジの下部（バンパーを取り外した状態）から 38.00mm を超えて延びることはできません。
- ⑪ 片側に 2 個のスポンソンを装備している場合、スポンソンの全長の合計は 1530mm を超えてはならない。

注) Kawasaki SX-R1500 (SLTD) のハルについて、ワイドハル（以前のフロントスポンソン）の使用は禁止とする。

- 03) スコープゲートは必要であり、ドライブシャフトと平行に走る 1 本のバーを備えたタイプ。フィンは、ポンプ吸入領域の平面から 12mm 以下。危険を生じさせないように、エッジは丸みを帯びている必要有。
- 04) ポンプカバープレートは、当該機種純正品より 100mm まで延長してもよい。側面は、危険を引き起こさないように、エクステンションをポンププレートの丸みを帯びた部分に接続する必要があり、危険を引き起こす可能性のあるフィン、ラダー、スケグ、その他の付属物は不可。
- 05) トリムタブは、滑走面の幅以下で、100mm 以下。トランサムは、危険を引き起こさないように、すべてのエッジに丸みを付ける。
フィン、ラダー、スケグなど危険を引き起こす可能性のある付属物は不可。
- 06) セーフティバンパーは必須。
- 07) 船体の通常露出している領域内にバラスト重量を追加して、ハザードが発生しない限り、部品の変更や再配置を必要としないものは可。
- 08) ガソリンタンクは、安全性に関する基準に準ずる必要があります燃料を補給し、パイロットや他のユーザーに危険をもたらさない。
- 09) フューエルフィルターネックは、エンジンコンパートメントの外側に配置する必要がある。
- 10) 排気口はボンドフランジより下側（エンジン停止で浮かべた状態で水面下）でボンドフランジより内側のハルにあること。
- 11) いかなる状態であっても、船体外に油分の排出があってはならない。

ENGINE

- 1) 規定の排気量を超えない限り改造をしてもよい。
- 2) 排気系統は日本限定ルールとして、JPBA の承認品、もしくは純正相当品のウォーターボックスを取り付けなければならない。騒音レベルは 15m で 86dB 以下。
- 3) 排気口はボンドフランジ下のトランサムに設置。船体の外側に突き出てはならない。
- 4) 冷却系統は手動による水量、水圧の変更は不可。それ以外は改造してもよい。
- 5) 一般的なメンテナンス部品（プラグ、コード、キャップ等）は安全な状態で改造してもよい。
- 6) 燃料ホース、ブローバイホースは日本規定の耐圧、耐熱、耐油性能を持ったものを使用しなければならない。ホース類は強固なものを使用しなければならない。

【RUNABOUT CATEGORY GP1】

- 01) 高度な改造を加えた水上バイク競技への関心を促進することを目的としています。
- 02) 使用する水上バイクは、JCIの検査が必要となります。
- 03) 日本限定ルールとして、JPBAの承認品、もしくは純正相当品のウォーターボックスを取り付けなければならない。騒音レベルは15mで86dB以下。
- 04) 燃料は、基準に準拠している事。(有鉛は不可)
- 05) 重量制限を満たすために、競技の前にウエイトを追加することができます
※重量は、燃料タンクが空で、他のすべての液体がレースレベルで行われることによって測定される。
- 06) ターボハウジングとエキゾーストマニホールドは、冷却水が完全循環水タイプであること。

MAIN CRITERIA

- 01) ランナバウトは、次の基準に準拠する必要があります。
 - a) 2ストローク 2600 cc 未満
 - b) 4ストローク 2600 cc 未満
 - c) ターボ4ストローク 2000 cc 未満
- 02) 乾燥重量は300kg以上
- 03) 船体の長さは360cm未満
- 04) 船体幅は127cm未満
- 05) メーカー純正船体を使用の場合、船体の長さは394cm未満

HULL

- 01) 柔軟な牽引ロープが必要です。牽引ロープは柔軟なものでなければなりません危険を引き起こさないように材料(ナイロンストラップ、ロープなど)
- 02) 片側最大1セットのスポンソンを装備できます。
※スポンソンのベース本体にフィンがついているものは不可。
 - ① スポンソンは、変更、アフターマーケット、再配置、または削除されてもよい。
 - ② スポンソンの本体の厚さは6mm以上、すべての前縁は、危険を引き起こさないように丸みを帯びている必要があります。
 - ③ ボンドフランジより、外側にスポンソンを取り付けは不可。
 - ④ フィン、ラダー、ウイングなど危険を引き起こす可能性のある付属物は不可。
 - ⑤ フィン本体には、金属の使用は可。ただし危険が及ぼさないような形状であること。
 - ⑥ スポンソンの全長は、910mmを超えてはならない。スポンソンは、船体の側面から100mmを超えて突出してはならない。
 - ⑦ スポンソン(フィンの部分)は、ベースより、下側に63.5mm以下。
 - ⑧ スポンソンは、船体の側面が底部と交差する点より下に伸びてはならない。
 - ⑨ ボンドフランジの内側にスポンソンを取り付けることはできますが、スポンソンはボンドフランジ(バンパーを取り外した)より、はみ出してはならない。
- 03) スコープゲートは必要であり、ドライブシャフトと平行に走る1本のバーを備えたタイプ。フィンは、ポンプ吸入領域の平面から12mm以下。危険を生じさせないように、エッジは丸みを帯びている必要があります。

- 04) ポンプカバープレートは、**当該機種純正品より 177.80mm まで延長してもよい**。側面は、危険を引き起こさないように、エクステンションをポンププレートの丸みを帯びた部分に接続する必要があり、危険を引き起こす可能性のあるフィン、ラダー、スケグ、その他の付属物は許可されません。
- 05) トリムタブは、滑走面の幅以下で、100mm 以下である必要があります。トランサム。危険を引き起こさないように、すべてのエッジに丸みを付ける必要があります、フィン、ラダー、スケグなど危険を引き起こす可能性のある付属物は不可。
- 06) セーフティバンパーは必須。
- 07) 船体の通常露出している領域内にバラスト重量を追加して、ハザードが発生しない限り、部品の変更や再配置を必要としないものは可。
- 08) ガソリンタンクは、安全性に関する基準に答える必要があります燃料を補給し、パイロットや他のユーザーに危険をもたらさない。
- 09) フューエルフィルターネックは、エンジンコンパートメントの外側に配置する必要がある。

10) シート

アフターマーケット、改造またはプロトタイプシートは、利用可能。構造と測定値を尊重する必要があります。緩衝材は追加または削除できます。純正シートの高さから最大10%変更可。背もたれの高さは、ライダーが着席したときの18cm未満。

- 11) 排気口はボンドフランジより下側（エンジン停止で浮かべた状態で水面下）でボンドフランジより内側のハルにあること。

- 12) いかなる状態であっても、船体外に油分の排出があってはならない。

ENGINE

- 1) 規定の排気量を超えない限り改造をしてもよい。
- 2) 排気系統は日本限定ルールとして、JPBAの承認品、もしくは純正相当品のウォーターボックスを取り付けなければならない。騒音レベルは15mで86dB以下。
- 3) 排気口はボンドフランジ下のトランサムに設置。船体の外側に突き出てはならない。
- 4) 冷却系統は手動による水量、水圧の変更は不可。それ以外は改造してもよい。
- 5) 一般的なメンテナンス部品（プラグ、コード、キャップ等）は安全な状態で改造してもよい。
- 6) 燃料ホース、ブローバイホースは日本規定の耐圧、耐熱、耐油性能を持ったものを使用しなければならない。ホース類は強固なものを使用しなければならない。

【SPORTS CATEGORY GP1】

- 01) 高度な改造を加えた水上バイク競技への関心を促進することを目的としています。
- 02) 使用する水上バイクは、JCIの検査が必要となります。
- 03) 日本限定ルールとして、JPBAの承認品、もしくは純正相当品のウォーターボックスを取り付けなければならない。騒音レベルは15mで86dB以下。
- 04) 燃料は、基準に準拠している事。(有鉛は不可)
- 05) 重量制限を満たすために、競技の前にウエイトを追加することができます
※重量は、燃料タンクが空で、他のすべての液体がレースレベルで行われることによって測定される。
- 06) ターボハウジングとエキゾーストマニホールドは、冷却水が完全循環水タイプであること。

MAIN CRITERIA

- 01) 次の基準に準拠する必要があります。
 - a) 自然吸気2ストローク 1300 cc未満
 - b) 自然吸気4ストローク 1620 cc未満
 - c) ターボ4ストローク 1100 cc未満
(900cc以下の過給機4stエンジンは8psiまでのブースト圧)
(900cc以上1100cc未満の過給機4stエンジンは6psiまでのブースト圧)
- 02) 船体はIJSBAによって承認および公認された船体を使用し、アッパーデッキは寸法、スケールに相違なく、元になる機種デッキのレプリカである事を根本に、OEMに制限はされません。(純正形状を維持した状態の社外品の使用可)
- 03) 船体の長さ、幅はスポーツGPで承認された機種長さの長さに準ずる。

HULL

- 01) 柔軟な牽引ロープが必要です。牽引ロープは柔軟なものでなければなりません危険を引き起こさないように材料(ナイロンストラップ、ロープなど)
- 02) 片側最大2セットのスポンソンを装備できます。
※スポンソンのベース本体にフィンがついているものは不可。
 - ① スポンソンは、変更、アフターマーケット、再配置、または削除されてもよい。
 - ② スポンソンの本体の厚さは6mm以上、すべての前縁は、危険を引き起こさないように丸みを帯びている必要があります。
 - ③ ボンドフランジより、外側にスポンソンを取り付けは不可。
 - ④ フィン、ラダー、ウィングなど危険を引き起こす可能性のある付属物は不可。
 - ⑤ フィン本体には、金属の使用は可。ただし危険が及ぼさないような形状であること。
 - ⑥ スポンソンの全長は910mmを超えてはならない。スポンソンは、船体の側面から100mmを超えて突出してはならない。
 - ⑦ スポンソン(フィンの部分)は、ベースより、下側に63.5mm以下。
 - ⑧ スポンソンは、船体の側面が底部と交差する点より下に伸びてはならない。
 - ⑨ ボンドフランジの内側にスポンソンを取り付けることはできますが、スポンソンはボンドフランジ(バンパーを取り外した)より、はみ出してはならない。
- 03) スコープゲートは必要であり、ドライブシャフトと平行に走る1本のバーを備えたタイプ。

フィン、ポンプ吸入領域の平面から 12mm 以下。危険を生じさせないように、エッジは丸みを帯びている必要があります。

- 04) ポンプカバープレートは、**当該機種純正品より 177.80mm まで延長してもよい**。側面は、危険を引き起こさないように、エクステンションをポンププレートの丸みを帯びた部分に接続する必要があります。危険を引き起こす可能性のあるフィン、ラダー、スケグ、その他の付属物は許可されません。
- 05) トリムタブは、滑走面の幅以下で、100mm 以下である必要があります。トランサム。危険を引き起こさないように、すべてのエッジに丸みを付ける必要があります。フィン、ラダー、スケグなど危険を引き起こす可能性のある付属物は不可。
- 06) セーフティバンパーは必須。
- 07) 船体の通常露出している領域内にバラスト重量を追加して、ハザードが発生しない限り、部品の変更や再配置を必要としないものは可。
- 08) ガソリンタンクは、安全性に関する基準に答える必要があります燃料を補給し、パイロットや他のユーザーに危険をもたらさない。
- 09) フューエルフィルターネックは、エンジンコンパートメントの外側に配置する必要がある。

10) シート

アフターマーケット、改造またはプロトタイプのシートは、利用可能。構造と測定値を尊重する必要があります。緩衝材は追加または削除できます。純正シートの高さから最大 10% 変更可。背もたれの高さは、ライダーが着席したときの 18cm 未満。

【RUNABOUT 1100 OPEN】

- 01) 高度な改造を加えた水上バイク競技への関心を促進することを目的としています。
- 02) 使用する水上バイクは、JCIの検査が必要となります。
- 03) 日本限定ルールとして、JPBAの承認品、もしくは純正相当品のウォーターボックスを取り付けなければならない。騒音レベルは15mで86dB以下。
- 04) 燃料は、基準に準拠している事。(有鉛は不可)
- 05) 重量制限を満たすために、競技の前にウエイトを追加することができます。
※重量は、燃料タンクが空で、他のすべての液体がレースレベルで行われることによって測定される。
- 06) ターボハウジングとエキゾーストマニホールドは、冷却水が完全循環水タイプであること。

MAIN CRITERIA

- 01) ランナバウトは、次の基準に準拠する必要があります。
艇体は各メーカーのIJSBA承認、公認の機種とする。
排気量については上記当該機種を元に1100cc未満までとする。
アッパーデッキは当該機種の純正品のまま使用。
※船体の補修は元の構成より2mmを超えて変更してはならない。

HULL

- 01) 柔軟な牽引ロープが必要です。牽引ロープは柔軟なものでなければなりません危険を引き起こさないように材料(ナイロンストラップ、ロープなど)
- 02) 片側最大2セットのスポンソンを装備できます。
※スポンソンのベース本体にフィンがついているものは不可。
 - ① スポンソンは、変更、アフターマーケット、再配置、または削除されてもよい。
 - ② スポンソンの本体の厚さは6mm以上、すべての前縁は、危険を引き起こさないように丸みを帯びている必要があります。
 - ③ ボンドフランジより、外側にスポンソンを取り付けは不可。
 - ④ フィン、ラダー、ウイングなど危険を引き起こす可能性のある付属物は不可。
 - ⑤ フィン本体には、金属の使用は可。ただし危険が及ぼさないような形状であること。
 - ⑥ スポンソンの全長は、910mmを超えてはならない。スポンソンは、船体の側面から100mmを超えて突出してはならない。
 - ⑦ スポンソン(フィンの部分)は、ベースより、下側に63.5mm以下。
 - ⑧ スポンソンは、船体の側面が底部と交差する点より下に伸びてはならない。
 - ⑨ ボンドフランジの内側にスポンソンを取り付けることはできますが、スポンソンはボンドフランジ(バンパーを取り外した)より、はみ出してはならない。
- 03) スコープゲートは必要であり、ドライブシャフトと平行に走る1本のバーを備えたタイプ。
フィンは、ポンプ吸入領域の平面から12mm以下。危険を生じさせないように、エッジは丸みを帯びている必要があります。
- 04) ポンプカバープレートは、当該機種純正品より177.80mmまで延長してもよい。側面は、危険を引き起こさないように、エクステンションをポンププレートの丸みを帯びた部分に接続する必要があり、危険を引き起こす可能性のあるフィン、ラダー、スケグ、その他の付属物は許

可されません。

- 05) トリムタブは、滑走面の幅以下で、100mm 以下である必要があります。トランサム。危険を引き起こさないように、すべてのエッジに丸みを付ける必要があります、フィン、ラダー、スケグなど危険を引き起こす可能性のある付属物は不可。
- 06) セーフティバンパーは必須。
- 07) 船体の通常露出している領域内にバラスト重量を追加して、ハザードが発生しない限り、部品の変更や再配置を必要としないものは可。
- 08) ガソリンタンクは、安全性に関する基準に答える必要があります燃料を補給し、パイロットや他のユーザーに危険をもたらさない。
- 09) フューエルフィルターネックは、エンジンコンパートメントの外側に配置する必要がある。

10) シート

アフターマーケット、改造またはプロトタイプシートは、利用可能。構造と測定値を尊重する必要があります。緩衝材は追加または削除できます。純正シートの高さから最大10%変更可。背もたれの高さは、ライダーが着席したときの18cm未満。

ENGINE

- 1) エンジンを使用される当該機種元のエンジンを使用しなければならない。
- 2) エンジン各箇所は加工してもよい。
- 3) シリンダーヘッドは当該機種エンジンのまま使用しなければならない。加工してもよい。
- 4) バルブ、バルブスプリング、リテーナーは改造、加工してもよい。
- 5) カムシャフト、ギヤ、テンショナー、チェーンは改造、加工してもよい。
- 6) クランクシャフトは改造してもよい。ただし重量は元の前後5%以上変更してはならない。
- 7) バランサーシャフトは改造してもよい。
- 8) 排気系は改造してもよい。
※日本限定ルールとして、JPBA の承認品、もしくは純正相当品のウォーターボックスを取り付けなければならない。騒音レベルは15mで86dB以下。
- 9) 冷却システムは改造をしてもよい。ただし運転中に手動による制御は禁止とする。
- 10) 検水ノズルは後方、または下方に排出し、他ライダーに影響ないようにする。